報　告

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023 年度 活動報告

1. 京都文教大学　地域連携学生プロジェクト

京都文教大学では、地域を対象とする学生の自主的活動の中から、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みを「地域連携学生プロジェクト」として選定し、支援、助成している（2007 年度～ 2022 年度採択プロジェクト数：延べ 102 団体）。

地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどへの学部、学科を超えた主体的な取組や、実習や演習などの延長にあり、大学での学びを発展的に展開するような取組、地域の住民・行政機関・地元企業・団体等との連携、協働で展開する取組を「地域連携学生プロジェクト」として採択し、学びと地域貢献を両立させる場として本活動を推進している。

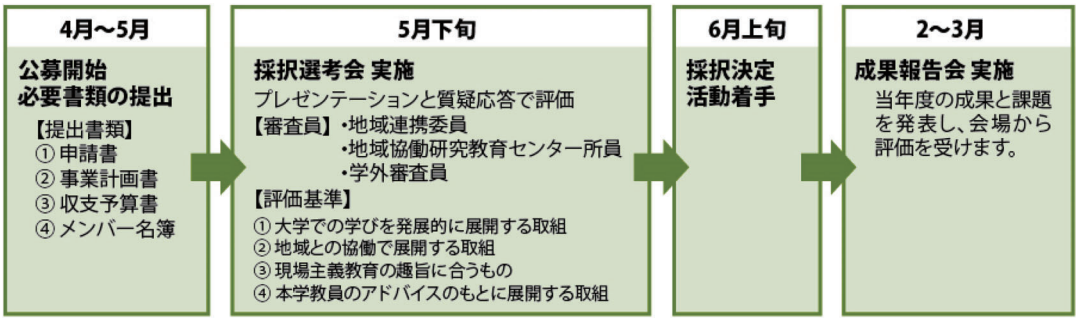
2. 募集概要

2023 年度は次の通り公募をし、学生団体（4 団体）から申請された。

申請期間：4 月 10 日～ 4 月 28 日
助成期間：約 1 年間（採択日～ 2024 年 3 月 31 日）
助成金額：上限 25 万円までとする。
申請条件：
・地域と協働および連携を図る事ができるプロジェクトであること。
・本学学生（学部・学科は不問）3 名以上で構成されるチームであること。
・地域パートナーまたは連携先が明確であること。
・適正な経理処理・事業報告ができること。
・学生が依頼し趣旨を理解してサポートする本学教員（アドバイザー教員）がチームに含まれること。

3. 採択までの流れと年間スケジュール

次の通り、年度当初に学内から申請を募り、その後採択選考会を実施し採択の可否を行う。審査は、京都文教大学地域協働研究教育センター員と地域連携委員の学内審査員と、行政・企業・高等学校等から成る学外審査員が行う。
採択された学生団体に年度末に開催する成果報告会の参加と事業報告書の提出を義務づけ、活動のフィードバックを行う。



4. 2023 年度の採択団体

以下の 4 団体が「地域連携学生プロジェクト 2023」に採択され、活動に取組んだ。

※ 【　】内に活動開始年度　≪　≫内にアドバイザー教員名を記載

1. 宇治☆茶レンジャー【2010 年度～】／森 正美（総合社会学部総合社会学科 教授）≫
2. KASANEO【2018 年度～】≪黒宮 一太（総合社会学部総合社会学科 准教授）≫
3. KminK【2022 年度～】≪黒宮 一太（総合社会学部総合社会学科 准教授）≫
4. 商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas【2014 年度～】≪片山 明久（総合社会学部総合社会学科 教授）≫
5. lemon tree【2023 年度～】≪平尾 和之（臨床心理学部臨床心理学科 教授）≫
6. REACH【2019 年度～】≪松田 美枝（臨床心理学部臨床心理学科 准教授）≫

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	宇治☆茶レンジャー
事業実施地域	宇治市、京都市
連　携　先	地域パートナー：通圓茶屋　通円祐介様　　宇治市茶生産組合長・福文製茶場　福井景一様 主な連携団体等：京都府茶業会議所、京都府茶協同組合など
活動の種類	(該当するものを〇で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　3 共助型福祉活動　4 地域の安心・安全 5 地域美化活動　⑥地域産業おこし　⑦地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　⑩地域文化活動　⑪地域行催事　12 その他（　　）
主な活動	（　10　）番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を 1 つ選んでください。
地域課題・事業の目的	急須でゆっくりお茶を楽しむ時間が減っている一方、宇治茶は、文化的価値や生産、製造の風景・景観の美しさについての評価が高まってきている。また宇治市立小学校での「宇治学」の取り組みの中で宇治茶を学ぶ地域学習の広がりや、海外での日本茶ブームなど、宇治茶を取り巻く環境は変化し続けている。本プロジェクトは、幅広い世代の方に宇治茶のおいしさや魅力を発信することで、多くの人に宇治茶に親しんでもらうことを目指す。
具体的な事業内容	**【宇治茶デジタルスタンプラリー】** 宇治にまつわる歴史や文化のクイズに答えながら、宇治茶にまつわる場所を巡ることで宇治茶を学んでもらうイベント。近年は、接触を減らすという観点からスマートフォンと QR コードを利用したデジタルスタンプラリーの形式と昨年と同様にクイズも取り入れて約 3 週間実施した。さらに、今年度はイベントの期間中に急須で淹れる宇治茶の淹れ方ワークショップや茶香服体験を計画し、宇治茶に親しむイベントを行った。 **【急須で淹れるお茶の淹れ方体験ワークショップ（全 11 回）】** 4 月：縁庵マルシェ（株式会社 宇治吉田運送にて） 6 月：うじまきマルシェ（株式会社 かわな工業にて） 7、8 月：オープンキャンパス 4 回（京都文教大学にて） 9 月：伏見ふれあいプラザ（伏見区役所にて）、 まちにわワークショップ（菟道ふれあいセンターにて） 10 月：くみやまスマイルフェスティバル（久御山中央公園にて） わんさかフェスティバル（宇治橋通り商店街にて） 12 月：うーちゃフェスタ（宇治市産業会館にて） 今年度は昨年度よりも多くの回数のワークショップ学内外様々な場所で行うことができた。各イベントでは参加者に淹れるお茶についての紹介を行ったりするなどして、積極的にコミュニケーションをとるなどの工夫を施すことで参加者には宇治茶について知っていただきつつ、楽しみながらワークショップに参加してもらうことができた。 また、OC に出展した際はお茶の淹れ方ワークショップを行いながら府外の高校生とも交流をした。 **【茶香服体験ワークショップ】** 8 月：みんなのきサマースクール（京都文教大学にて） 12 月：ともいきフェスティバル（京都文教大学にて） 2 月：宇治茶デジタルスタンプラリーイベント内（アーバンデザインセンター宇治にて） 茶香服体験を実施した。煎茶、玉露、ほうじ茶の 3 種から当ててもらうという簡易的な形式で、子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでもらえるように工夫して行った。

具体的な事業内容	**【日常的なミーティング】** 今年度は9名の1年次生を新メンバーとして受け入れる事ができた。昨年度までと同様、ミーティングの中でメンバーがお茶を淹れ研鑽を積むことを継続して行った。 **【その他】** 新しく入ったメンバー向けに宇治茶道場「匠の館」でお茶の淹れ方の他、お茶と宇治のまち交流館「茶づな」では茶筒作りやミュージアム鑑賞など宇治茶の歴史や文化を学ぶ機会を設けた。また、7月には全国まちづくりカレッジに参加し、全国の大学の様々な学生団体との交流を行い活動の視野を広げる機会となった。9月には宇治商工会議所が発刊している商工会議所NEWSの記事のため株式会社ジーアンドエーを取材しお茶の飲用以外の活用方法など目新しい情報を得ることが出来た。 **【SNSを使った情報発信】** お茶淹れワークショップなど出展するイベントを告知するほか二月に実施したデジタルスタンプラリーでのクイズの答えと解説を投稿するなど昨年度より多くの情報発信を行うことができた。
事業の成果	**【宇治茶デジタルスタンプラリー】** 例年の秋季（11月）開催ではなく、今年度は2月に実施という形で行った。イベントの全体の参加者は850人、景品交換所に訪れた人数は526人であった。昨年同様クイズを取り入れ、スマートフォンを持っていなくても楽しんでいただけるようにした。参加者へのアンケートでは、「楽しかった」と回答した人の割合が97％であり、「来年も参加したい」と回答した人の割合は87％であった。例年とは違う2月開催について、アンケートでは「ちょうど良かった」と回答した割合が71％、「どの時期でも良い」と回答した割合が23％であった。例年とは違う2月にデジタルスタンプラリー開催については、参加者の反応は良好であった。またアンケートの結果として約80％の方が、宇治茶デジタルスタンプラリーが目的で中宇治に訪れたと回答されており、さらに約60％の方が宇治茶デジタルスタンプラリー初参加と回答されていた。宇治茶デジタルスタンプラリーを通して多くの人に宇治に訪れてもらうきっかけを作ることができたと考える。イベント期間中二度の3連休があったためお茶の淹れ方ワークショップや茶香服体験なども取り入れてイベントを行い、スタンプラリー終了後のお楽しみイベントとして参加者からの反応も良かった。来年度以降も引き続き行いたいと考える。 **【お茶の淹れ方体験ワークショップ】** ワークショップを行うことで、より多くの方に宇治☆茶レンジャーの活動や急須で淹れたお茶の魅力を伝えることができた。例年より多くワークショップを行う中で、多くの人に急須で淹れたお茶の魅力を普及させることができただけでなく、自分たちの教え方の上達にもつながった。淹れるお茶の種類の紹介をしながら、宇治茶を扱っている店舗を知ってもらうきっかけになり、宇治茶への親しみを増やす機会になったので、来年度も引き続き行っていきたい。 **【茶香服体験ワークショップ】** 今年度は、数回茶香服体験を行うワークショップを行った。初めて行ったときは、スタッフ側もあまり慣れておらず、少しあたふたすることが多かったが回数を重ねていくうちに慣れていき、スムーズに運営できるようになった。このワークショップ中で、茶葉に触れてもらったりして、飲み比べるという内容は参加者にとても好評で、わいわいととても盛り上がっていた。来年度の活動でも、今年度の経験を上手く生かし、茶香服体験ワークショップは 続けていきたい。

次年度への課題	**【宇治茶デジタルスタンプラリー】** 今年の宇治茶デジタルスタンプラリー内で行ったクイズについて、お茶屋さんを知ってもらうきっかけ作りやスマホを持っていない方にもイベントに参加してもらうことを目的として企画していた。しかし、お茶屋さんを知ってもらうきっかけ作りという部分は完全には企画に組み込めていないなと感じ、実際にお店に入ってもらったり、お店の人と話して聞いてみるなどの橋渡しのような働き掛けができるような企画へと改善していきたいと思います。 **【SNS を使った情報発信】** 今年度は、YouTube チャンネル「宇治茶レ☆茶ンネル」を使った活動ができていなかったり、Instagram などを使った発信もあまり活発にはできなかった。事業の目的にある、幅広い世代の方に宇治茶のおいしさや魅力を発信することで、多くの人に宇治茶に親しんでもらうために、宇治茶についての発信、自分たちが行うワークショップなどを発信して、まずは興味や関心を持ってもらい、そして宇治☆茶レンジャーのイベントに参加してもらえるように繋いでいくという事ができるように来年度は活動したいと考えます。 **【その他】** 昨年度は、コロナウイルス感染症の影響でお茶屋さんとの交流が難しかったが、今年度は 5 類に移行したのでお茶屋さんの交流をするという意見がミーティングで上がったが、実現まで計画を立てる事ができなかった。来年度は、クイズの製作などでお茶屋さんとの交流がしたいと考える。 今年度は、お茶を学ぶ研修を新メンバーが加入したタイミング以外にできなかった。そのため、メンバー内でお茶に関する知識に偏りが生まれたので、1 年を通して 2 ～ 3 回の研修を計画したいと考えます。
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	今後の展望として、来年 15 年目に入る宇治☆茶レンジャーの活動として「、幅広い世代の方に宇治茶のおいしさや魅力を発信する」とは何かをメンバーたちで一度考え、自分たちの活動にどう生かすか見つめ直していきたいと思います。宇治☆茶レンジャーの団体名にも含まれているチャレンジを忘れず、メンバーがこの団体の活動を通して自分にとってのチャレンジをできるように取り組んでいきたいと思います。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）森　正美 （アドバイザー教員所属）京都文教大学 総合社会学部　教授
	新メンバーである 1 年生と、経験のある上級生が、上手く協力しながら、様々な活動をやり遂げることができたのではないかと思います。また地域での活動として、淹れ方ワークショップなどの依頼も増え、そういった経験を通じて、メンバーのコミュニケーション力が向上していく様子がとてもよかったと思います。　ただ、どうしてもインプットできている知識や経験が不足しているので、基礎的なレベルから、自分の個性や奥深さを出していくレベルへの飛躍、という点では物足りない部分もあるので、学外での学習や体験も含めて、宇治茶の知識や経験の幅を積極的に広げていってもらいたいです。
地域パートナー連携先からの評価（コメント）	（御名前）通円祐介 （御所属）株式会社　通圓
	2023 年度は新型コロナの影響も徐々になくなり、学内や地域での活動を通して身に付けられた宇治茶の知識を使っての、今後の活動に期待します。茶業者が関わらせていただいた活動としてはスタンプラリーだけでしたが、期間中大変暖かい日もあり、小学生を中心にたくさんの方がスタンプラリーとクイズを楽しまれている姿をみました。スタンプラリー期間中の土日祝など、宇治チャレンジャーの学生さんが動ける日には、参加者向けのワークショップやスポットガイドなどがあれば、さらに良いイベントになるかと思います。冊子等が長年基本デザインが変わっていないので、内容と共に刷新されればと思います。

地域 パートナー 連携先からの 評価 （コメント）	（御名前）福井景一 （御所属）福文製茶場
	コロナ禍の重苦しい空気から解放されて、鬱積したものが堰を切る様に人々が動き出し、それに合わせて皆さんの活動も多岐にわたって行われました。 　以前と比べてかなり行事が増えたので期間中はかなり忙しかったのではなかったのではないでしょうか？無事終えられた事にまずお疲れ様と申し上げたいと思います。 　その上で反省すべき点や出来なかった事、課題に挙げられている事柄については皆さんで再度議論して次に活かせていける様にしていただきたいと思います。コロナ禍の中で活動のノウハウなどが一旦途切れてしまった感じがあったので、振り返りをして後輩の方々により良いカタチで引き継いで行って欲しいと思います。

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	KASANEO
事業実施地域	宇治市
連　携　先	地域パートナー：北槇ハーモニー 主な連携団体等：宇治市健康長寿部生きがい課
活動の種類	（該当するものを〇で囲んでください。複数選択可） 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　③共助型福祉活動　④地域の安心・安全 5 地域美化活動　6 地域産業おこし　7 地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　⑩地域文化活動　11 地域行催事　12 その他（　　）
主な活動	（　3　）番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を１つ選んでください。
地域課題・事業の目的	超高齢社会の現在、多世代で交流し助け合っていく必要があると考える。しかし、それを実行するには年代差の壁が大きすぎるように感じる。例えば京都文教大学では、宇治市高齢者アカデミー生が学内にいるにもかかわらず、アカデミー生と学生が交流しているのはごく一部である。世代が異なるもの同士で話題のズレなどが生じることは仕方がないことであろう。そこで、歳の離れた者同士でも自然に会話し交流できるような共通の話題を模索した。その結果、20 年周期で流行するといわれている「ファッション」に着目し、ファッションを通じて多世代の自然な交流を可能にする場作りを目的として事業に取り組むことにした。
具体的な事業内容	**①４／16　縁庵マルシェ（主催：宇治吉田運送）** 主な活動としては衣服の展示をさせてい頂いた。また、吉田運送さんの社長様が着ておられた着物を KASANEO メンバーが着用し、社長様のその着物への想い出や前社長様との想い出について観覧形式でインタビューをさせて頂いた。 **②６／４宇治まきマルシェ（主催：かわな工業）** 昨年から交流のある北槇グリーンタウンの住民の方と一緒にファッションショーを行った。学生と住民の方と２人１組となり、ランウェイを歩き、学生から住民の方に衣服の想い出や着ていた当時のことをインタビューした。 **③９／３伏見ふれあいプラザでの京都すばる高校高大連携ゼミとの参加** 京都すばる高校の生徒の皆様には、昨年と同様に４月から９月にかけて連携授業を行った。自分の家族から想い出の衣服を提供いただき、その思い出を聞き取りと、それを活かしたコーディネートを考えた。その授業の集大成として伏見市役所で行われた「伏見ふれあいプラザ」で第一部は「京都すばる高校の皆様」第二部は「KASANEO メンバー」の２部構成でファッションショーを行った。 **④11／23 KASANEO FES（主催：**UDC アーバンデザインセンター宇治**）** 展示会 提供していただいた衣服を、「想い出ラベル（提供者の名前とその衣服の想い出を載せたラベル）」とともに展示をした。展示している想い出のある衣服とは別に KASANEO に提供していただいた衣服を１着 100 円から販売した。また、想い出のある衣服を受け継ぐブースを設置した。想い出のある衣服を「ほしい理由」を元にシニアスタッフとカフェスペースで対話を行い衣服を受け継いでもらう人を決定する。今回は５着の衣服を「想い出」として受け継ぐことが出来た。今年度は学内ではなく UDC アーバンデザインセンター宇治で行ったため、KASANEO のことを知らない方や海外の方など多くの人と衣服を通して交流ができる場となった。

具体的な事業内容	**⑤1／10ともいきフェスティバル** 今回は初の試みであるハンカチのタイダイ染め体験を行った。普段は想い出を受け継ぐことが多いが新たに体験型で想い出を作ることに挑戦をしタイダイ染めを行なった。子供から大人まで楽しく体験しオリジナルのハンカチを作ることができ新たな層にも KASANEO を知ってもらう機会となった。 **⑥2／24第8回健康長寿フェス（主催：宇治市）** 連携先である宇治市健康長寿部長寿生きがい課様と一緒になって企画実行ができた。今回は衣服の展示会を行なった。衣服の展示を行うことでより KASANEO について知っていただく機会となった。 ⑦その他 6 月 宇治商工会議所 NEWS（SAIJO 様） 7 月 オープンキャンパス（16 日） 8 月 オープンキャンパス（6 日 20 日） 9 月 伏見ふれあいプラザ（3 日） 　　学内スナップ撮影（9 日） 10 月 くみやまスマイルフェスティバル（9 日） 　　わんさかフェスタ（28 日） 11 月 NHK 京都「京いちにち」にて活動紹介（17 日） 12 月 ともいき（共生）フェスティバル（10 日） 2 月 グリーンカフェ（19 日） 3 月 学生とともにのばす京都プロジェクト 2023 成果報告会（1 日） 　　探求学習交流会（9 日） 　　源氏物語ミュージアム周辺でのスナップ撮影イベント（10 日） 　　宇治商工会議所 NEWS 報告・交流会（21 日）
事業の成果	**①多世代交流の場作り** KASANEO FES では学外で行ったことでより多くの方に KASANEO について知ってもらうことができた。また、衣服の想い出を知って頂いたり、受け継ぐことができ衣服を通して交流ができた。 **②広報** NHK 京都「京都いちにち」にて活動を紹介して頂いたことで KASANEO について多くの方に知っていただく機会となった。NHK の放送を見て KASANEO に興味を持ったり、イベントに参加する方などが増え交流する機会が増えた。また、イベントの様子をまとめた動画を Instagram で発信するなど広報にも力を入れ KASANEO を知ってもらう機会が増えた。 **③新たな交流の場としてのワークショップ** ともいき（共生）フェスティバルでは新たな体験型のタイダイ染めイベントを行ったことで新たな親子層など幅広い方に知っていただく機会となった。多世代交流の場が増えたことは大きな成果である。
次年度への課題	**①多世代交流の場作り** 一年を通して新たに受け継ぐ衣服少なかったと感じる。イベントで毎回声掛けを行っているが、思い出のある衣服を持っている方と出会う事が少なかったり、受け取りまでの流れが少し複雑で口頭では分かりにくい等の問題があったと感じる。新年度は衣服受け取りまでの手順を分かりやすく表記することや、これまで以上に積極的に衣服の提供の声掛けを行っていきたい。

次年度への課題	**②メンバー数が減っていること** 今年度に取り組んだ多くのイベントでは、タイダイ染めや映像制作など、新しくチャレンジする内容が多く、大きな経験となった。しかし、新しい取り組みをすることでカサネオ内での発見や成長はあったが、毎年新しく加入する新入生やシニアメンバーの数が減ってしまっていた。NHK 京都への出演などを通して KASANEO を知ってくれる人たちの数は増えているので、来年度はメンバーの数を増やす活動も精力的に行いたい。 **③広報** 今年度では SNS での発信をミーティングや様々なイベントの度、してはいるが、正直プロジェクトにとってまだあまり大きな影響には繋がっていない。そこで来年度は SNS と向き合う視点を再考して、新たな形、考え方で SNS での活動を行いたい。
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	**①多世代交流の場作り** 今年度は多くの人に KASANEO を知ってもらう機会が多く、沢山の方と交流することができたため、今後も積極的にイベントなどに参加する。 想い出のある衣服の譲り受けを増やために、想い出のある衣服専用の譲り受け会や、学外でのイベントを増やしていく。 **②広報** シニアメンバーを増やすため、シニア世代に届きやすい紙媒体を利用した情報紙を定期的に作り KASNEO について興味を持ってもらう。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）黒宮一太 （アドバイザー教員所属）京都文教大学 総合社会学部　教授
	今年度の KASANEO は、2018 年度の発足当初から精力的に活動してきたことにより、近年また今後の日本の社会課題に着目した社会的意義の高いプロジェクトであることを広く認識してもらえたことで、昨年度まで以上に KASANEO への注目度が高まり、学生たちもそれに応えるべく精力的に活動し、すでに関係を構築している団体との活動を継続するだけでなく、新たな取り組みに挑戦することのできた 1 年であったと高く評価できる。メンバーがすくないなかで、3 回生を中心に結束し、KASANEO が大事にしてきたコンセプトをしっかりと守りながら、新たな学外団体との連携にも積極的に取り組んだり、タイダイ染めのワークショップを開催するなど、新たなアイデアを実行にうつすメンバーたちの発想力と行動力はとりわけ高く評価できると考えられる。また、1 年の活動の集大成として毎年度開催している KASANEO FES 学外で開催することにより、KASANEO を広く知ってもらう機会をつくっただけでなく、KASANEO という活動の社会的意義を社会に発信することができた点も評価できる。プロジェクトが長くなってくると活動が停滞してしまうということがしばしば起こるが、このような KASANEO の新たな展開は、「KASANEO として何ができるか」をメンバーたちがしっかりと話し合い、新たな取り組みに果敢に挑戦しようという姿勢、自分たちの大切な KASANEO を自分たちが楽しむんだという姿勢から生まれたものであり、この点は高く評価したい。 今年度は、6 年めを迎えたこともあって認知度も高まり、また、KASANEO という活動の社会的意義も知られるようになったことで、メディア（NHK 京都放送局作成のテレビ番組）でもとりあげられ、これまで以上に多くの人に関心をもってもらうことができた。それだけでなく、メンバーたちが KASANEO という活動に自信と誇りをもつ機会にもなったと考えられる。次年度は、シニアメンバーや地域パートナーの方たちと協力しながら、現 2 回生が中心となって KASANEO の良さである「全員が楽しんで活動する」ということを徹底し、今年度とはまた異なる色合いに変化していく KASANEO を、今年度以上に面白い KASANEO を見せてもらいたい。

地域 パートナー 連携先からの 評価 （コメント）	（御名前）青木史恵 （御所属）宇治市役所健康長寿部長寿生きがい課
	今年度も健康長寿フェスに参加して頂き、来場されたたくさんの方々に見ていただくことで、皆様の思い出話に花を咲かせられたのではないかと思います。また、フェスでは「新たなつながりが生まれた」とも伺っており、ご参加いただいてよかったと感じています。高齢者アカデミーの現役生や卒業生と連携した本活動は、宇治市が実施している高齢者アカデミーの事業目的である、多世代交流や地域活動への参加促進につながる貴重な取組です。 ファッションを通じて楽しみながら自然な形で多世代交流を深めることで、新しい価値観やアイデアを取り入れられ、シニアメンバーの増加や更には地域社会の活性化につなげられるよう、今後も協力し合っていけたらと考えております。

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	KminK
事業実施地域	京都府久世郡久御山町
連　携　先	地域パートナー：久御山町　総務部　企画財政課 主な連携団体等：久御山町内自治会、KUMIDAN
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　3 共助型福祉活動　4 地域の安心・安全 5 地域美化活動　6 地域産業おこし　7 地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　10 地域文化活動　⑪地域行催事　⑫その他(自治会活性化活動)
主な活動	(　12　)番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	京都府久世郡久御山町には 38 の自治会が存在し、住民主体による様々な活動や事業が展開されている（2023 年 4 月 1 日時点)。一方で、自治会加入率は年々微減している。2019 年 4 月 1 日では、自治会加入世帯の割合は 50.5％であったのに対し、2023 年 4 月 1 日では 45.7％となっている。この背景として、自治会が実際に何をやっているのかわかりづらい、金銭的負担や定例会参加などの制約がある、入会へのハードルが高いなどの課題が挙げられる。そこで、本団体では、久御山町役場、久御山町の各自治会などの地域と連携し、自治会が抱える課題解決や未加入世帯も交えたイベントの実施を通じて、全世代がいきいきと暮らせる自治会の構築を目指す。
具体的な事業内容	本団体の事業内容は以下の 4 点である。 **①久御山町が抱える課題の解決案を検討・提案** ・東島田町内会との協議（2023 年 6 月 28 日、9 月 19 日） 東島田町内会と加入世帯の増加に向けた取り組みを行うための協議を実施した。協議の内容をもとに、防災に焦点を当てた加入促進チラシを作成した。 ・西部西林自治会との協議（2023 年 8 月 29 日） 西部西林自治会より自治会総会で使用するひな形作成のご依頼を受け、作成を行った。 **②行政・自治会など地域と連携した各種イベントの企画・実施** ・KUMIDAN 主催「くみやま まちのがっこう」(2023 年 4 月 2 日、11 月 3 日） 4 月は KUMIDAN ブースの補助、11 月は折り紙ワークショップの出展・運営補助を行った。 ・社会福祉協議会主催「いきいきサロン」(2023 年 6 月 16 日、6 月 20 日、7 月 19 日） サロン内で行われる「Zoom の使い方体験会」の補助を行った。 ・久御山町役場福祉課主催 脳の健康をテーマにした講演会（2023 年 6 月 17 日） 講演内で紹介されたアプリのインストールのサポートを行った。 ・栄 1・2 丁目自治会主催「夏祭りの集い」(2023 年 8 月 20 日） 子どもたちのうちわ作成やビンゴ大会などの補助を行った。 ・栄 1・2 丁目ホワイト子ども会主催「ハロウィンイベント」(2023 年 10 月 29 日） 子どもたちが安全にクイズラリーを実施できるよう、引率や声かけを行った。 ・栄 1・2 丁目自治会主催「マルシェ」(2023 年 11 月 12 日） 栄 1・2 丁目自治会と協議を重ね、輪投げブースの補助や運営補助を行った。 ・NPO 法人ひと・まち・ジャンクション「のこのこ村」開所式（2023 年 2 月 3 日） 子ども第三の居場所「のこのこ村」の開所式に参加した。

具体的な事業内容	**③久御山町民の意見収集の場づくり** ・KminK主催「くみやまスマイルフェスティバル」（2023年10月9日） 久御山町内の新たな繋がりの場を作り出すことを目的に、KminK主催イベントの企画・運営を行った。 **④SNSを用いた久御山町の積極的な活動発信やKminKの活動紹介** ・久御山町産業大使（毎週／2024年5月25日より開始） 今年度より久御山町産業大使に委嘱され、Instagramで久御山町に関する投稿を発信した。 ・KminKツアー（2023年5月21日） 新メンバーを対象とした研修ツアーを企画し、活動地域である久御山町を実際に訪れた。 ・京都文教大学オープンキャンパス（2023年6月18日ほか） オープンキャンパスに参加した高校生や保護者に対し、KminKの活動内容紹介を行った。 ・全国まちづくりカレッジ＠西浦（2023年7月1～2日） 全国の「まちづくり」に関わる大学生とともに発表会やフィールドワークに参加した。 ・「第86回西脇知事と行き活きトーク～地域と学生による地域活性化について～」（2023年11月3日 ※くみやま まちのがっこうイベント内プログラム） 大学生による地域活性化について、京都府の西脇知事と意見を交換した。 ・京都文教大学主催「ともいきフェスティバル」（2023年12月10日） 久御山クイズを出題し、景品としてKminKキャラクター『くみチョー』の缶バッジを配布した。 ・学生とともにのばす京都プロジェクト成果報告会（2024年3月1日） 京都文教大学の代表として、成果報告とパネルディスカッションに参加した。 ・KminK定例ミーティング（毎週／2024年4月18日より開始） 毎週ミーティングを行い、打ち合わせやイベント準備などに取り組んだ。 ・久御山町総務部企画財政課との協議（毎月／2024年10月26日より開始） 久御山町での活動に関する情報共有や振り返り、進捗報告を定期的に行った。
事業の成果	今年初の開催となったKminK主催イベント「くみやまスマイルフェスティバル」では、久御山町という地域の中で久御山町との繋がり、出店者および来場者との繋がり、久御山高校や大学内プロジェクトとの繋がりなどの学生同士との繋がりを深められたことを実感しており、このイベントを新たな繋がりを作る場とすることができた。「第86回西脇知事と行き活きトーク」やともいきフェスティバルにおける久御山クイズ、久御山町産業大使の活動を通して、KminKの認知度を向上させることができた。人手不足が課題となっている自治会において、地域の一員として、イベントの運営補助や作業のデジタル化推進に携わることができた。
次年度への課題	今年度は、イベント運営・参加の中で多くの課題が見つかった。 開催されるイベントが秋に集中していたため、手が回らない時期があった。地域住民の方々にとっても、イベントが重なることで参加しづらくなるというデメリットがある。次年度は久御山町の年間行事をあらかじめ把握し、KminK主催イベントの開催時期について検討していきたい。 そして、今年度はKminK主催イベント「くみやまスマイルフェスティバル」を実施することができた。久御山町やKUMIDAN、久御山高校をはじめとする関係団体のお力添えによって成功を収めることができたが、本団体の課題も明らかになった。具体的には、雨天時の対応についての打ち合わせ不足や役割分担の曖昧さなど、運営面で行き届かない点があった。また、当日の参加者は出展団体の割合が高く、イベントの周知が十分ではなかった。KminKを知らない方にも興味を持っていただけるよう、広報活動にもさらに力を入れていきたい。 久御山町内でのイベントは、これまで繋がりのなかった自治会の地域住民の皆さまとの接点をもつことができる貴重な機会である。イベントの運営・参加を、新たな連携先や活動の拡大へと繋げていきたい。KminKを身近な存在として認識していただけるよう、これまで以上に多くのイベントに関わることが目標である。

今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	「くみやまスマイルフェスティバル」の開催を継続することで KminK 主催イベントを久御山町恒例の催しとして認識してもらえるようすることや、まだ KminK が活動したことのない場所や連携したことのない団体と共同して行うことでその地域に属する自治会との関わりを持てるようなイベント作り、広告活動を行っていきたい。そして、「くみやまスマイルフェスティバル」で形成した繋がりを次の取り組みに向け、その新たな活動の中でも別の新しい繋がりを形成できるような好循環を作っていきたい。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）黒宮　一太　先生 （アドバイザー教員所属）京都文教大学 総合社会学部　准教授
	KminK は 2022 年度に新規採択され、地域連携学生プロジェクトとしては 2 年めのプロジェクトである。今年度は、昨年度の実績をふまえ、たとえば、KminK 主催イベントである「くみやまスマイルフェスティバル」の開催など、新たな展開にも精力的に取り組むことができた。また、コロナ禍で中断してしまっていた各自治会での各種催しが再開されたことから、以前から関係を構築していた栄 1・2 丁目自治会や西部西林自治会それぞれの自治会からの要望に応える活動に、これまで以上に積極的に取り組むことができた。加えて、同じくすでに関係を構築していた KUMIDAN とも、KminK 主催イベントへのご協力も含め、連携を深めることができた。このように、今年度は昨年度以上に、久御山町にお住いの全世代がいきいきと暮らせる自治会および町になるような活動にメンバーが精力的に取り組むことができた点が高く評価できる。そして何より、こうした今年度の成果は、地域パートナーになってくださっている久御山町総務部企画財政課の方に、定期的にミーティングをおこなうなう機会を設けていただけたおかげでもある。KminK の活動を理解してくださり、町に寄せられる各自治会からの困るごとや要望等を企画財政課と共有しながら、KminK の活動趣旨に沿うさまざまな取り組みの実施について協議し、実行に移すことができたことは、今年度の何よりの成果であると評価している。なお、今年度の各種取り組みや久御山町の産業大使としての活動により KminK の認知度も徐々に高まってきたことで、西脇京都府知事との行き生きトークに参加することができ、久御山町の課題や KminK の活動について意見交換できたことも、KminK にとって、これまでの、また今後の活動を考えるうえで良い機会になったという点も付け加えておく。次年度は、今年度構築したさまざまな関係性を大事にしながら、自治会の活性化という事業目的を達成していくために何をすべきかをメンバーでしっかりと考え、久御山町の方たちと力を合わせて、久御山町をより魅力的な町にしていけるように力を尽くしてもらいたい。
地域パートナー連携先からの評価（コメント）	（御名前）蒲田　真希　様 （御所属）久御山町役場　総務部　企画財政課
	新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけ変更等に伴い、徐々に地域の活動が再開されるなか、自治会・町内会と積極的に関わり地域の活性化に寄与いただきました。また、自治会等との連携だけでなく、町役場や他団体が主催するイベントにも多く御協力いただいたうえ、KminK 主催のイベントを開催されるなど、活動の幅を拡げる一年であったと感じます。 学生のみなさんとの協働と連携による地域コミュニティの活性化は、本町のまちづくりの目標の 1 つでもある「地域力を生かした協働のまちづくり」を推進するうえで非常に重要な取組です。来年度以降も、積極的に活動を継続・拡大していただくことを期待しています。

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	商店街活性化隊しあわせ工房 CanVas
事業実施地域	宇治橋通り商店街
連　携　先	地域パートナー：宇治橋通商店街振興組合 主な連携団体等：宇治市役所
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　3 共助型福祉活動　4 地域の安心・安全 5 地域美化活動　6 地域産業おこし　⑦地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　10 地域文化活動　⑪地域行催事　12 その他（　　）
主な活動	（　7　）番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を1つ選んでください。
地域課題・事業の目的	宇治橋通り商店街は国内外からの観光客やイベントの開催によって、賑わいのある商店街である。しかし、近年のコロナ禍によって、観光客の減少やイベントの中止があったが、コロナ禍が明け、観光客数の回復やイベントの実施再開によって、賑わいのある商店街を取り戻し、コロナ禍前のような（2022年は2019年の約70％の観光客数）賑わいが戻ってきたと考える。対面でのイベントが実施可能になり、宇治に訪れた人に宇治橋通り商店街の魅力を伝える機会が増え、宇治にもう一度訪れてもらう、リピーター率を増やすためには、イベントの企画運営の工夫、店主さんと深い関係を築き、交流の機会を設け、地域の魅力、課題などを常に確認していく必要があると考える。そして、学生という立場から、商店街と宇治を訪れた人の橋渡しの役割、繋ぐきっかけ作りを行う。また、今、宇治が舞台の一部になる大河ドラマが放映されている。これに関連したロゲイニングや写真展の開催をすることで、地域の人、観光客の人に宇治に興味を持ってもらう機会の創出を目指す。最終的には、イベントを通して宇治橋通り商店街や宇治への滞在時間の増加、また来たいと思ってもらう気持ちを作ることのきっかけ作りをしていくことが目的である。
具体的な事業内容	**1. ロゲイニングの開催** ・6月～ まちぶらロゲイニング、源氏物語ロゲイニング「歩む君へ」ロゲイニング冊子の作成、改訂 ・9月 研修ロゲイニング ・12月16日 校友会ロゲイニング（約10名の参加） ・2月2日 京都文教大学 観光・地域デザインコースを対象に源氏物語ロゲイニング「歩む君へ」の開催（約20名の参加） **2. 宇治橋通り商店街でのイベント企画運営** ・8月5日 スマイルサタデー（子供向けの夏祭りブースと七夕ブース、宇治市観光協会主催「灯りの絵画展」の協力） ・10月28日 わんさかフェスタ（宇治橋通り商店街内でのスタンプラリーを実施、他ブース・他店舗のお手伝い） ・11月4日～5日 いけばな街道（いけばなの飾り付け、展示場所への搬入、片付け、ビラ配り） ・「宇治ふぉと！～君の光イチものがたり～」 宇治市市長公室秘書広報課と連携し、市政だよりや宇治市の子育てLINEにて写真募集の呼びかけ／11月18日妙楽集会所、12月13日月照館リズムレッスン室にてスマホでの子供の写真の撮り方WS開催／広報のためFMうじに2回出演 **3. 商店街の魅力発信** ・SNSを利用した商店街の魅力発信→6月4日 宇治魅力探しを行い、動画を作成・SNS投稿 ・Spiral Up（FROが発行するサテライトキャンパス取材記事） 8月号に ギフトショップあおいそら さん掲載

具体的な事業内容	**4. 他団体・企業との連携事業** ・9 月 8 日、12 月 8 日、2 月 15 日 東宇治高校の探求学習 ・7 月 1 日～ 2 日「全国まちづくりカレッジ」 ・「宇治商工会議所 NEWS 記事作成」（宇治市内の商店街や店舗を紹介し掲載） しお冨様 7 月号掲載／炭焼き肉と京の野菜 Nico 様 3 月号掲載 **5. その他の活動** ・6 月 18 日、7 月 16 日、8 月 5 日、8 月 6 日、8 月 20 日 オープンキャンパスへの参加 ・11 月 18 日 まちにわワークショップへの参加 ・12 月 10 日 ともいきフェスティバルへの参画
事業の成果	**1.「歩む君へ」（源氏物語ロゲイニング）** 「歩む君へ」（源氏物語ロゲイニング）では、今年度は源氏ロゲイニングの内容を 1 年かけて準備した。このロゲイニングでは、新しい取り組みとして、ロゲイニング参加者に和歌を詠んで考えてもらうミッションや、絵巻や源氏物語ミュージアムの展示を通して答えてもらうミッションを作成し、源氏物語で遊ぶ要素を入れ、それを通して、源氏物語を身近に感じてもらう、触れてもらうことができるロゲイニングを作成できたことが成果に挙げられる。また、プレではあったが、観光・地域デザインコースの 1 年を対象に実施した。実施後に参加者から貴重な意見を頂いたり、改善点・修正点ができたため、来年度のために改善点・修正点を無くす。この事業では企画をしていく中で出てくる問題についてどう対処していくのか、自分たちは次に何をする必要があるのか、という課題に対しての向き合い方、進め方を学び、成長することができたと考える。 **2. まちぶらロゲイニングについて** まちぶらロゲイニングでは、京都文教大学の校友会の方々にロゲイニングを開催した。参加者の方からロゲイニングについてや「宇治にあまり来たことが無く、ロゲイニングで宇治を歩いたが、歩き足りなかったから宇治という町をもっと知る、楽しむために、もう一度宇治に来たい！」という意見をいただき、CanVas が事業の目的で挙げている「宇治をもう一度訪れてもらう」が成果として見れたと考える。 **3. 宇治ふぉと！～君の光イチものがたり～** 今年度も宇治市役所の方々と連携し、WS の開催や、様々な媒体を通しての広報ができ、写真展を継続してきたり、今年度は宇治市内の中学校への応募チラシの配布を行ったことで、これまでとは異なる層の方に応募してもらえ、104 点の作品を集めることができた。写真を展示していた店主の方々からは「今までよりも多くの方が見に来てくれた」という意見をいただいた。開催期間中は、宇治市宇治橋通集会所にて週末一斉展示を行い、多くの方々にお店などに足を運んでもらい、展示写真を見てもらう、商店街に足を運んでもらい、店主の方とのコミュニケーションの場作りを手伝うことができたと考える。 **4. 商店街主催イベントの参画について** 今年度は商店街主催イベントに 2 つ参画した。1 つめは、スマイルサタデーだ。スマイルサタデーでは、ゲームや工作を体験してもらい、景品はスマイルサタデー クラフトビール夜市の名前に因んだ景品を準備し、ゲームだけではなく、景品でもイベントを楽しんでもらう工夫を行った。2 つめは、わんさかフェスタだ。わんさかフェスタでは、CanVas ブースだけでなく、他ブースへのお手伝いを行った。他ブースのお手伝いを行うことで、店主さんとの交流を持つことができたり、CanVas の活動に興味を持ってくださり、コミュニケーションを取ることに繋げていくことができたと考える。

次年度への課題	**1. ロゲイニングについて** まちぶらロゲイニングは、ロゲイニング冊子の修正に時間がかかったり、参加者を募って、ロゲイニングイベントを企画・実施することができなかった。また、プチロゲイニングも実施することができず、プチロゲイニングを行っていたら、宇治を訪れた人に観光名所だけでなく、普段目につかないような宇治の景色も見てもらうことができる、商店街の方々と関わっていただくことができたのではないか、と考える。 **2. 宇治ふぉと！～君の光イチものがたり～について** 今年度の写真展では、班内の連携がしっかり取れておらず、周囲に迷惑をかけた部分があった。また、次年度も写真展を行う際には、班内だけでなく、商店街や宇治市の方々としっかり連携し、写真を見に来て下さる来場者の方々などの反響を分析しながら工夫をしていく必要がある。 **3. CanVas について** 今年度の CanVas の活動は、採択選考会で目標に挙げていた「情報発信に力を入れる」の1つであるSNSを活発に動かすことができなかった。また、CanVas メンバーの間の参画意欲が低く、商店街に足を運ぶ、商店街の方々と交流する機会が少なかったことが課題に挙げられる。
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	来年度は、2024年1月から始まった大河ドラマ「光る君へ」の源氏物語の舞台に含まれる宇治、源氏物語の世界を楽しんでもらうロゲイニングを、参加者を募って、開催していく予定である。その開催に向けて、ロゲイニングブックのさらなる改善や参加者を募る際の注意事項やどういう風に進めていくのか、ちゃんと実行することができるのか、などのモニタリングを行っていく。今年度は、CanVas の SNS の活発な利用や CanVas メンバー間の参画意欲があまり見られなかった。来年度は、SNS での商店街などの情報発信を活発に行い、また、参画意欲、CanVas メンバーという自覚を持つために、CanVas はどういう目的を持ち活動しているのか、イベントを企画したり参画することで、事業の目的で挙げている「また来たいと思う」商店街づくりをしていくことができるのか、を改めて考え直す。また、商店街に積極的に足を運ぶために研修ロゲイニングの頻度を増やしたり、商店街に足を運ぶ頻度を増やすために、月1回などと更新頻度を決め、SNS で商店街のお店や風景などを発信していくなどの新たな企画を行っていきたい。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）片山明久 （アドバイザー教員所属）京都文教大学 総合社会学部　教授
	本年度は、活動面では例年のルーティン的なイベントの実施や高校の探究授業への参画など幅広く活動を行った。中でも新しく企画・実施した「源氏物語ロゲイニング」と継続開催した「宇治フォト」に大きな成果が見られた。「源氏物語ロゲイニング」はほぼ1年かけて粘り強く準備を行ったもので、宇治の歴史的魅力を新しい形で発信できたところが評価できる。「宇治フォト」は3年目となる取り組みだが、継続開催によって定着し、店舗に商店街ならではの暖かい雰囲気を生むことに成功したと評価できる。運営面では、2，3回生のメンバー数も多く層の厚い活動が展開されたと思う。ただメンバー間に意識の差があり、1部のメンバーに仕事が偏った事や1回生の勧誘が不調に終わったことは今後の反省点と感じる。今後はこれらが改善されることを期待する。
地域パートナー連携先からの評価（コメント）	（御名前）佐脇至 （御所属）宇治橋通商店街振興組合
	一年間の活動、お疲れ様でした。計画されていた全ての事業に意欲的に取り組まれていたと思います。役割分担も的確にされ、チームワークがある活動をされていたと思います。 特に恒例の2つの商店街イベントでは CanVas の存在感を十分に発揮し、賑わい創出に大きく寄与されました。 また、従来のロゲイニングを大河ドラマに焦点を当てて計画されたことはタイムリーであり、話題性という観点からも宇治橋通り商店街にとどまらず中宇治エリアの賑わい創出に大いに期待できるチャレンジだと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	lemon tree
事業実施地域	宇治市
連　携　先	地域パートナー：宇治市長寿生きがい課、宇治市福祉サービス公社、京都府立洛南病院 主な連携団体等：
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　③共助型福祉活動　4 地域の安心・安全 5 地域美化活動　6 地域産業おこし　7 地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　⑩地域文化活動　11 地域行催事　12 その他（　　）
主な活動	（　3　）番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を 1 つ選んでください。
地域課題・事業の目的	宇治市では 2016 年 3 月より、全国で初めて認知症当事者を中心として社会の様々な領域から認知症と共に生きるためのアクションを起こす、認知症アクションアライアンス（DAA）活動が始まっている。 しかしながらそういった先駆的な活動の認知度は領域や世代が限られているのが現状であり、今後より多くの認知症当事者、多領域、多世代に活動の輪を広げると共に、活動への参加（認知度）向上を図る必要があると言える。 本プロジェクトは、宇治市における認知症アクションアライアンスの活動の輪を広げ、より多くの人に活動を認知してもらうと共に、定期的に行われるれもねいどグループミーティングから挙げられる課題やアイデアを具体的に活動として形にできる場を設けることを目的とする。
具体的な事業内容	・定期的に行われるれもねいどグループミーティングへの参加 ＊5 月：「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けて今後取り組みたいことについて ＊6 月：新・京都式オレンジプランに関する認知症当事者・家族ミーティング ＊7 月：新・京都式オレンジプランに関する認知症当事者ミーティング ＊8 月：新・京都式オレンジプランに関する家族ミーティング ＊11 月：「ともいきフェスティバル」に向けたグループワークと全体での共有 ・れもねいどお茶摘みへの参加 ＊5 月：渡辺製茶さんにて認知症当事者やそのご家族の方たちとのお茶摘み ・ともいきフェスティバルへの参加 ＊12 月：ともいきフェスティバルにて大学れもんカフェの運営サポート ＊12 月：ともいきフェスティバルにてワークショップの開催 （京都認知症総合センター・作業工房ほうおうのご協力のもと、認知症当事者と学生、地域の子どもたちと共に端材やハギレを使ったれもん型のクリスマスオーナメントを作るブースの設置）

事業の成果	これまでに積極的に行われることがなかった認知症当事者と学生との相互的な関わりを持つことができたという点において、世代を超えたこれからの「認知症と共に生きる社会」の一例を示すことができた。 また、本プロジェクトの活動をきっかけに認知症当事者やそのご家族が今後、学生との関わりを持つ際の架け橋としての存在を確立し、若年層から働きかけるコミュニティの一つとして認知してもらえるきっかけとなった。 さらに、学生側からしても認知症当事者に対してコミットしやすい立ち位置を確立したことにより、学生という立場においてこれまでは難しかった、認知症及び認知症当事者に対するアプローチの仕方を見出すことができた。
次年度への課題	今年度の活動では認知症当事者やそのご家族、れもねいど企業・団体の方たちとの関係性の確立で手一杯になってしまったため、学外への発信活動や下級生へと継承していく働きかけが手薄にならないよう、SNS 等を活用して積極的に広報活動していく必要がある。 本プロジェクトの活動範囲の多くが本学であったため、予算に大幅な誤算が見られた。そのため、活動に関する計画（場所・参加人数・活動内容等）を具体的、且つ実現可能な範囲で立てると共に、それらの計画を基にした予算の適切な見積もりをすることが次年度の課題である。
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	多世代・多領域に活動を知ってもらうために、SNS を用いた広報活動により一層力を入れて取り組みたい。また、活動自体に対してのみではなく、共に活動している学生の声にも焦点を当て、同世代やより若い世代が抱く先入観を変えるべく SNS の活用を積極的に行っていく。 これまでのような学内で行われるグループミーティングの枠を超えて、認知症当事者と学生が気軽に交流できる場所を作りたいと考える。また、交流できる場や築いてきた人間関係をさらなるつながりへと発展させていくための組織づくりの一つとして、下級生へ継承していくための勧誘や宣伝活動も重視した活動を行っていく。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）平尾　和之 （アドバイザー教員所属）京都文教大学 臨床心理学部 教授
	3年次ゼミ授業の枠で行ってきた「れもねいどグループミーティング」を経て、学生の主体的な志から lemon tree プロジェクトが誕生したのはまさに画期的で、教員としてこの上なく嬉しいことでした。現代高齢化社会における重要な地域課題である「認知症とともに生きるまちづくり」においては、世代を超えた交流、世代継承性が不可欠です。内田代表をはじめ、lemon tree のメンバーは、そのフレッシュな発想と活動力で、れもねいどの輪に若い力をインプットしてくれました。認知症当事者やそのご家族をはじめとする上の世代と後輩大学生や子どもたち下の世代をつなぐ活動は、まさに lemon tree ならではの存在感でした。れもねいどのみなさんからも大きな期待が寄せられ、希望となっています。今年度はメンバー全員が4年次生だったので、就職進路活動との両立や継続性が課題でしたが、継承してくれる後輩たちも現れ、頼もしい限りです。lemon tree の活動により、若い世代にれもねいどの輪がさらに広がっていくことを期待しています。
地域パートナー連携先からの評価（コメント）	（御名前）森　俊夫 （御所属）京都府立洛南病院
	2016年に始動した宇治市認知症アクションアライアンス（れもねいど）、それと同時に始まった京都文教大学での「れもねいどグループミーティング」。これまでの大きな蓄積をもとに8年目に誕生した lemon tree 。グループミーティングという場を超えて認知症当事者と学生との相互交流を目的とした新しい試みに注目しています。2024年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法施行」が施行されましたが、そこで追求される「共生社会」は、京都文教大学の建学理念である「ともいき」と重なります。グループミーティングでの交流を超えて、学生のみなさんと当事者のみなさんの交流の場が拡大していき、宇治の新しい扉が開かれることに期待しています。

京都文教大学地域連携学生プロジェクト 2023
事 業 実 績 書

プロジェクト名	REACH
事業実施地域	京都府（京都市伏見区・宇治市・京田辺市ほか）
連　携　先	地域パートナー：特定非営利活動法人京都ダルク、就労継続支援 B 型事業所 三休 主な連携団体等：社会福祉法人ももやま福祉会ぐんぐんハウス、社会福祉法人世光福祉会障害者地域共生拠点イマジン
活動の種類	(該当するものを○で囲んでください。複数選択可) 1 環境保全活動　2 子育て支援活動　③共助型福祉活動　4 地域の安心・安全 5 地域美化活動　6 地域産業おこし　7 地域商業の活性化　8 農村・都市交流活動 9 地域スポーツ振興　⑩地域文化活動　11 地域行催事　12 その他（　　）
主な活動	（　3　）番　選択された番号のうち、もっとも重点においている活動を 1 つ選んでください。
地域課題・事業の目的	大学での講義の中では依存症からの回復過程における DARC や当事者グループの重要性を学ぶが、大学を一歩出れば、薬物依存症回復施設に反対意見を持つ人や、地域に依存症の人が来ることに対して不安を感じる人もいる。大学での学びと地域の現状とのギャップの中で、学生に出来ることやするべきことを考えていく必要がある。REACH では、薬物依存症をはじめとしたさまざまな社会的背景を持つ方々とも立場を超えた対等な目線を持ち、人と人との生きた交流をしていくことで、対話と共生が可能な地域と社会のあり方を考える。
具体的な事業内容	○福祉施設 ①月に 2 回三休にて就労作業に参加。また、月 1 回のミーティングを行った。 ② 5 月 24 日三休のメンバーが出店される "SHY なマルシェ（京田辺の商店街にて)" に参加。 ③ 9 月 16 日三休にて開催されたイベント 39TABLE のお手伝いを行った。 ④ 5 月 28 日ぐんぐんハウスとの交流会に参加。交流会主催の京都 top's クラブと繋がった。 ⑤ぐんぐんハウスの手づくり市に 3 回参加し販売の手伝いをした。 ⑥ 2 ヵ月に 1 回ぐんぐんハウスとミーティングを行い、8 月 28 日にはメンバーの名刺を作っていただいた。 ⑦ 11 月 4 日京都 top's クラブから依頼を受け, 京都聖嬰会へ行きイベントのお手伝いに参加した。 ⑧ 11 月 8 日ぐんぐんハウスにて紙漉きの作業体験に参加した。 ⑨大学構内見学をぐんぐんハウスと 2 回、イマジンと 2 回行った。 ⑩イマジンへ 3 回訪問し，REACH 持ち込み企画としてポストカードづくり・白玉づくり・縁日企画を行った。 ⑪ 2 月 9 日イマジン主催の花火イベントに参加した。 ○京都ダルク ⑫月に 2 回京都 DARC とレジンアクセサリー作成を通しての交流を行った。 ⑬向島にっこりフェスティバル，向島元気バザール，向島まつりにて計 5 回京都ダルクと隣同士でブース出店。京都 DARC のメンバーと作ったアクセサリーを販売した。 ⑭ 8 月 9 日京都ダルクへ訪問し，施設見学・アクセサリー作り・座談会（質問コーナー）を行った。

具体的な事業内容	○視覚障害 ⑮7月12日に社会福祉法人　京都ライトハウスへ施設見学に伺った。 ⑯9月3日伏見区役所で開催された伏見ふれあいプラザに参加し視覚障害者体験ブースを出店した。 ⑰9月13日・10月1日南部アイセンターにてiPhoneサロンのボランティアに参加した。 ○その他 ⑱7月19日宇治商工会議所所報に掲載するインタビューを放課後等デイサービスANERAにて実施した。 ⑲9月2日大学にて京都ダルク×三休× REACHのスポーツレクを行った。 ⑳9月8日東宇治高校へ訪問し，REACHの活動紹介を行った。 ㉑11月19日槇島福祉の園から依頼を受け, 京都DARCのメンバーとわくわくまつりに参加した。ぐんぐんハウスの和紙を使ったしおり作りと三休のドライハーブを使った香り袋作りのワークショップを行った。 ㉒12月10日ともいきフェスティバルに参加。京都DARCと三休のメンバーにスタッフとしてお手伝いいただき，三休のドライハーブを使用した香り袋とバスボム作りのワークショップを行った。 ㉓2月17日三休にて”さかさ”（京都DARCさんゲスト）に参加した。その後、さかさ参加者を対象に視覚障害者が使えるスマホの音声読み上げアプリについて講習会をさせていただいた。
事業の成果	○普段の交流から広がったこと ・各施設での交流によってメンバーさんと親密な関係性が築けた結果、活動の幅が広がった。 1ともいきフェスティバルでは、三休と京都DARCのメンバーに、槇島福祉の園のわくわくまつりで京都DARCのメンバーにスタッフとしてお手伝いいただき、ワークショップを行うことができた。また、ワークショップ形式にしたことにより、メンバーさんとお客さんが話す時間が長くなり、REACHが目指していた「人となりを知ってもらう」ことに繋がった。 2大学構内見学を企画し、ぐんぐんハウスさんに2回、イマジンさんに2回大学まで来ていただいた。学内の学生にREACHの活動を知ってもらえる機会となった。また夏には、宇治茶レンジャーに協力していただき、構内見学の前にお茶入れ体験を実施し、他プロジェクトとのコラボが実現できた。施設のメンバーさんも普段外出する時よりもリラックスされていて、楽しみなイベントとなっているとの感想をいただいた。 ・薬物依存に興味をもつ三休メンバーと京都DARCをつなぎ、依存症についてのイメージを編み直すことを目的とした、三休主催のイベント開催のきっかけを作れた。 ○ REACHが学んで広がったこと ・京都ダルクへ研修に行き、薬物依存について学んだ。その後、向島でのバザーに来られていた地域の方とお話をする時間を増やし、ダルクについてより深く知ってもらう機会を作った。 ・ライトハウスへ研修に行き、学んだことをイベントで地域の方に発信できた。 １三休にてボイスオーバーという画面を見なくても操作ができるスマホの機能についての紹介するワークショップを行った。約20人に参加していただいた。 ２伏見ふれあいプラザに参加し、視覚障害者体験ブースを出店した。アイマスクをつけて白杖を使って歩く体験をしてもらい、白杖の使用方法及び手引きの方法を知ってもらった。また、弱視の見え方が再現されたメガネをつけてぬりえをするワークや、REACHの普段の活動写真を展示し、弱視のメガネを使って見てもらうなどのワークを行い、視覚障害について体験的に知ってもらう機会になった。

次年度への課題	・理念の共有は行ったが、対象がはっきりしていない点や活動内容の幅広さによって新入生が混乱してしまった。 ・福祉や障害、依存症についてある程度興味を持つ層に向けたアプローチが多くなってしまった。 ・イベント後の参加者アンケートや感想等のフィードバックが不十分だった。 ・日々の活動や交流で精一杯になり、REACH 主催イベントの開催や発表など、地域発信をするところまで持っていけなかった点。 ・メンバー数に見合った活動量の調整が出来なかった点。 ・メンバー数の激減により、今まで通りの活動量をこなさなければいけないという義務感が大きくなり、主体性が損なわれていき、メンバー自身が活動を楽しめなくなった点。
今後の展望や取組みたい・チャレンジしたいこと	・メンバーのやりたいことを話し合い、想いに沿った活動を行っていく。 ・依存症や障害を持つ方と地域の方に対して大学生という立場でアプローチをしていき、誰もが過ごしやすいともいき社会を目指していく。
アドバイザー教員からの評価（コメント）	（アドバイザー教員氏名）松田美枝 （アドバイザー教員所属）臨床心理学科
	今年度の活動、お疲れ様でした。REACH メンバーが激減した中でも、これまで通りの活動を行った結果、それ で精いっぱいになって、活動の意義や目的よりも「予定をこなす」「約束を果たす」ことに追われてしまった感 じですね。それは REACH メンバーにとっても、地域パートナーにとっても、誰にとっても残念なことでした。 　アドバイザー教員である私が介入することも、REACH の皆さんと話し合いましたが、地域パートナーとの関係 性の中での学生の皆さんの意思を尊重することにしました。皆さんが、教員主導の枠でなく、主体的に活動して きたことが、地域の皆さんには伝わっていて、そこに価値があったと思っています。
地域パートナー連携先からの評価（コメント）	（御名前）（御名前）越智　有紗 （御所属）特定非営利活動法人京都 DARC
	まず全体的な活動を振り返って、学生さんたちが依存症当事者のことを知ろうとする積極性が欲しいと感じました。メンバーの激減によって、既存の活動を続けて行くだけで精一杯ということは皆さんを見て伝わってきました。一番大事なことは、学生さん自身が楽しんで当事者を知りたいと思える活動を共に模索し、実践することだと思っています。そのため、今後は REACH メンバーの負担も考慮しつつ、皆が楽しめる活動について話し合えたら良いなと思います。DARC も依存症について興味を持ってもらえるような話題提供に努めます。 また、今年度は人との繋がりが広がる活動が増えた（合同スポーツレク企画等）ことで、依存症当事者にとって自信に繋がる良い機会になったと感じています。今後は、地域の方も巻き込んだ活動もできると、“依存症者も地域の一員”ということを啓発できるのではないかと考えています。地域の方が依存症等について「知りたい」というきっかけを与えられるような新たな啓発の形も一緒に模索できると良いなと思っております。
	（御名前）世古口　敦嗣 （御所属）三休合同会社三休
	僕たちが求めていると想像していることを、そして、先輩たちがつくりあげていたことを再現しなくてはいけないというプレッシャーのもと活動を続けているように感じ、活動が義務的になっているように見受けられます。 活動する人数が減ったこと、そして、急に役割を任されたこと、様々な要因があるかもしれません。だから、今年の振り返りは活動の場をうまく提供できなかった反省しかありません。でも、年度の途中で代表と話し合ったことが転換期でした。その話し合いをもち、三休での活動の捉え方を再考したことで少しワクワクに変わったように感じます。そこからお昼休憩にゲームをしたりともいきフェスに参加したりと学生が主体の取組みになりましたね。